

洪水ハザードマップと避難情報について

浸水深と自宅の階数を見比べてみましょう。
自宅の階数より浸水深が高い場合は垂直避難ではなく、立退き避難が必要です。

洪水ハザードマップとは？

洪水ハザードマップは、熊谷市を流れる荒川、利根川、県管理河川が大雨によって増水し、堤防が決壊した場合（外水氾濫）の浸水想定区域図に基づいて、浸水する範囲と深さを示したものです。このほか、避難所や過去の内水浸水区域などを図示しています。なお、マップに着色されていない浸水想定区域外のところでも、想定を超える降雨や内水などにより浸水する場合がありますので、注意してください。

大雨が降ったときに起こる洪水（氾濫）には2種類あります

川の氾濫により起こる 外水氾濫

川が氾濫したり、堤防が壊れたりなどして、市街地に川から大量の水が一気に押し寄せて来ます。

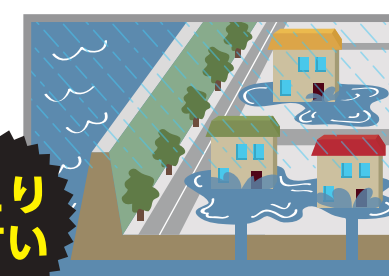
※ゲン！
流速が速い



排水できずに起こる 内水氾濫

低いところに水がたまり、雨水が川などに流しきれなかったりして、市街地が水浸しになってしまいます。

※ゲン！
起こりやすい



避難の目安となる水位

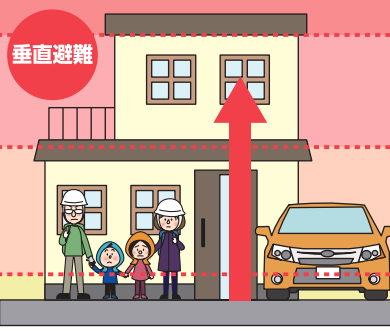
	単位:m	河川の水位			
		荒川 (熊谷観測所)	利根川 (八斗島観測所) やっただま	福川 (井段橋観測所) いどのぼし	石田川 (牛沢観測所)
氾濫危険水位	河川が氾濫する恐れがあり、市から避難指示が発表される水位	5.50	4.10	YP28.16	3.81
避難判断水位	市から高齢者等避難が発表される目安としている水位	5.00	3.10	YP27.33	3.10

※YP：江戸川の堀江をゼロとした時の水位。利根川水系福川の水位の基準。

警戒レベルと防災気象情報の関係

警戒レベル	市からの情報	住民がとるべき行動	警報等	指定河川洪水予報
高	5 緊急安全確保 ※可能な範囲で発令	災害がすでに発生しており、命を守るための最善の行動をとる	大雨特別警報	氾濫発生情報
↑	4 避難指示	危険な場所から速やかに避難 ・公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難しましょう。	土砂災害警戒情報	氾濫危険情報
↑	3 高齢者等避難	高齢者等は速やかに避難 ・避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難しましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	大雨警報 洪水警報	氾濫警戒情報
↓	2	ハザードマップ等で避難行動を確認	大雨注意報 洪水注意報	氾濫注意情報
低	1	災害への心構えを高める	早期注意情報 (警報級の可能性)	

浸水想定区域図の凡例

凡例	浸水深	やさしい日本語：図の見方 水がつかる深さ	Reference Inundation level	参照図例 浸水深度
	10.0m~20.0m	10.0 - 20.0m	10.0 - 20.0m	10.0 - 20.0m
	5.0m~10.0m	5.0 - 10.0m	5.0 - 10.0m	5.0 - 10.0m
	3.0m~5.0m (2階水没)	3.0 - 5.0m	3.0 - 5.0m	3.0 - 5.0m
	0.5m~3.0m (2階床下)	0.5 - 3.0m	0.5 - 3.0m	0.5 - 3.0m
	0.5m未満 (大人の膝)	0.5mより少ない	less than 0.5m	低干0.5m
	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)	家が流されるきけんがあるところ	Area in danger of house collapsing caused by flood	予測会造成房屋倒壊的氾濫区域
	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)			
	内水浸水履歴区域	まえに水があふれたところ	Area submerged with inland flood in the past	過去因洪水台風暴雨等造成积水氾濫的地方

※平成16年度から令和元年度までに市に寄せられた道路冠水の情報などをもとにした過去に内水浸水のあった場所

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域とは

大雨が降ったとき、河川の氾濫だけでなく、土砂災害も発生する危険性が高まります。そのためこのハザードマップには土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域も掲載しています。土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域は「土砂災害防止法」に基づき、埼玉県が指定したものです。

土砂災害の種類 土砂災害には、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)・土石流・地すべりの3種類があります。市では、がけ崩れのおそれがある土砂災害警戒区域・特別警戒区域が指定されています。

土砂災害警戒情報 土砂災害警戒情報は、大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で土砂災害の危険が高まったときに、都道府県と気象庁が共同で発表します。発表された場合、警戒区域付近にいる市民の皆さんは、いつでも避難できるよう準備するほか、市が発令する避難情報に注意しましょう。

土砂災害時の避難のタイミング 土砂災害の前兆現象を確認したら、避難情報が出ていなくても、早めに避難しましょう。

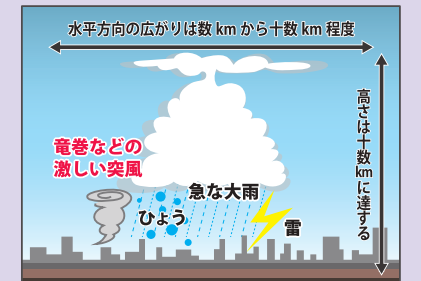
土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)
がけ崩れがおきた場合に、著しい危害を及ぼすおそれのある区域

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)
がけ崩れが起きた場合に、危害を及ぼすおそれのある区域

竜巻・雷対策

積乱雲には気をつけて！

積乱雲は、強い上昇気流によって垂直方向に著しく発達した雲です。夏によく見られる入道雲も積乱雲です。上空に冷たい空気があり、地上には温められた空気の層がある「大気の状態が不安定」な気象条件で発生しやすくなります。発達した積乱雲は、急な大雨、竜巻などの激しい突風、雷による災害をもたらすことがあります。



『竜巻』が間近に迫ったら

色々な物が猛スピードで飛んできます!!
頑丈な建物の中へ避難して!! 人や車も飛ばされます!!

『雷』が迫ってきたら

安全な空間へ避難してください!!

⚡ 落雷は屋内外で注意が必要です

周囲より高い場所に落ちやすい
高いものを伝って落ちやすい

屋内では

- » 戸戸、シャッター、カーテンを閉める
- » 窓、ドア、壁から離れる
- » 中心部に近い窓のない部屋に移動する
- » 頑丈なものの陰に入って身を守る

窓の側は危険

屋外では

- » 車庫、物置、プレハブへの避難は危険
- » 頑丈な建物の中に避難する
- » 建物の中に避難できない場合は、物陰やくぼみに身を伏せる

- » 家電製品のコンセントを抜く
- » 窓、ドア、壁から離れ姿勢を低く
- » 入浴や調理をしない

家電製品は落雷でショートするおそれがあります。また、雷は水道管を伝うこともあるため、水回りにも注意しましょう。

- » 頑丈な建物や、車の中に避難する
- » 背の高い木から4m以上離れる
- » 周囲より背を低く保つ
- » 長い物を高く持ち上げない